

令和7年度 佐賀県KAWARUチャレンジ事業

多布施川流域 ガイドブック



人と生き物がつくる佐賀の宝の川

多布施川を活かし続けていきたい。



森川海人プロジェクト
2代目キャラクター森川海人くん

表紙写真

2020.4.7多布施橋付近で撮影

令和7年度 佐賀県KAWARUチャレンジ事業

多布施川流域 ガイドブック

監修 佐賀自然史研究会（桜・蛍を除く生物）



クスノキ
佐賀県の県木と県花



カササギ
佐賀県の県鳥

令和8年2月
山口正吾

私が、川の役割りに興味を持つきっかけになったのは、NPO法人みなくるSAGAで出会った今は亡きメンバーとの出会いでした。

彼は、筑後川や十間堀川などで調査研究をしていた人で、彼と一緒にいった筑後川では、導流堤などについて調査研究の内容を詳しく話してくれました。

また、十間堀川では「上り専用と下り専用に分かれていて、中の島が道路の中央分離帯のような役割をしていた。」ことなどを聞き、川の役割や歴史等について非常に興味がわいてきました。

これを契機に、私が代表を務めるエスカルゴサイクリングクラブ（1974年創設）で、川や水をテーマにしたサイクリングを計画するようになりました。

これまでに、一級河川佐賀導水を筑後川から嘉瀬川までどったり、八田江、佐賀江川、本庄江の排水機場巡り、牛津川や六角川の治水インフラ巡り、多布施川での桜観察、昼間のホテルやトンボ観察サイクリングなどを実施したりしました。

私は、多布施川の近くに住んでおり、退職後は、多布施川の風景や生物を観察し、写真に記録することをライフワークにしています。

また、今はなくなっていますが、学生と市民が一緒に学ぶ佐賀環境フォーラムの水環境班に所属して、天祐寺川の水環境や多布施川流域でのホテルの再生をテーマに調査活動をしてきました。

撮りためた写真や活動経験、嘉瀬川交流塾等で学んだことを生かして、写真集やガイドブックにまとめて、多布施川の魅力を伝えたいと思っていたところ、令和7年度佐賀県KAWARUチャレンジ事業のことを知りました。「多布施川流域ガイドブック等の作成とインフラ&ネイチャーウォーキング実施」という事業内容で応募し、補助金交付事業として採択され、作成を始めました。

昨年7月から、活動で撮りためた生き物などの写真や2017年に行った多布施川流域の井樋や水路及び橋などの調査記録の整理作業、橋や井樋などの流域調査などを始めました。

生物については、写真の選別分類、名前の確認作業にかなりの時間がかかりましたが、監修を快諾していただいた佐賀自然史研究会の専門家の皆さんが、年末年始の多忙な時期にもかかわらず、生物名の確認作業等を短期間で行っていただいたおかげで、2月に発刊することができました。

このガイドブックで、多布施川の魅力が少しでも伝われば幸いです。

最後に、監修にご協力いただいた佐賀自然史研究会の専門家の皆さんと多布施川流域サイクリング調査や絵図作成、編集や校正作業等にご協力いただいた皆さんに心から感謝申し上げます。

令和8年2月28日

山口正吾

目次

【水利編】

- 多布施川の概要 1
- 多布施川の流路 2
- 嘉瀬川河道の変遷と多布施川 3
- 石井樋施設群(構築の理念と役割)【治水施設】 4
- 石井樋施設群(役割)【利水施設】と川上頭首工 5
- 多布施川の水利用と排水 6
- 井樋と水路の特徴と役割 7
- 佐賀城内を流れる多布施川と佐賀城お濠の水 8
- 多布施川流域ガイド(上流域) 9
- 多布施川流域ガイド(中流域) 10
- 多布施川流域ガイド(下流域) 11
- 多布施川の水利施設等一覧表 12
- 多布施川に架かる橋及び公園・史跡・その他一覧表 13

【生物観察編】

- 多布施川流域の生物概要 14
- 多布施川流域の生物観察ポイント絵地図 15
- 多布施川の桜と蛍 16
- 多布施川流域の風景 18
- 多布施川流域の生物観察おすすめスポット 19
- 多布施川流域で見られる主な淡水魚 22
- 多布施川流域で見られる主なトンボ 28
- 多布施川流域で見られる主なチョウとガ 32
- 多布施川流域で見られる主な野鳥 36
- 多布施川流域で見られる主な樹木 42
- 多布施川流域で見られる主な野草 48

【参考文献(WEB)資料】

- 参考文献(WEB)資料一覧(多布施川/水生昆虫/淡水魚) 56
- 参考文献(WEB)資料一覧(トンボ/チョウ・ガ/ホタル/野鳥) 57
- 参考文献(WEB)資料一覧(樹木/野草) 58

多布施川流域ガイド 水利編



石井樋施設群

【このガイドブックに掲載している写真の番号について】

写真の番号と背景色で、このガイドブックの絵地図とGoogle Map上の位置を確認できます。

㊦写真番号①：主な水利施設と橋で、ガイドブックの絵地図とGoogle Mapに掲載しています。

㊦写真番号②：㊦以外の水関係の施設。㊦写真番号③：㊦以外の橋。㊦写真番号④：公園・史跡等

※背景色有番号の施設は、Google Mapには、すべて掲載していますが、ガイドブックには、紙面の関係で掲載していないものがあります。

※Google MapのQRコードを9ページの絵地図に掲載しているので、詳しい位置を確認することができます。

なお、Google Mapでは、番号①⇒●、②⇒●、③⇒●、④⇒●の表示になります。

【川の右岸と左岸】 **右岸**：下流に向かって右側 **左岸**：下流に向かって左側

● 多布施川の概要

多布施川は、昔から人々が生活に利用しながら守り、 生き物たちを育ててきた宝の川（里川）

◆ 佐賀市史には、「多布施川は、律令時代は水豊かな河川として、流域の条理地域を潤していたが、律令制度崩壊後は、河川の氾濫や支配者の恣意的な再開発のため、多くのデルタに分かれて江戸時代に及んだことは、今日市内に東西大島、平島、愛敬島などの旧地名が残っているのを見ても推察される。」とあり、更に「『疎導要書』の注記によれば、多布施川が嘉瀬川の分流として戦国時代の元亀年間（1570-72・今山の陣-元亀元年）既に存在したばかりでなく、石井樋の前身として、北村井樋が設けられ、井樋番を常置し、その開閉に当たらせていたことがわかる。」とも記載されています。

このように、昔から佐賀平野を潤す重要な河川として存在していたようです。

また、昔、嘉瀬川は、花こう岩の土砂で河道が埋まって、天井川となって、堤防決壊と氾濫を繰り返し、大規模に流路を変えて佐賀平野を乱流していたようです。

◆ 成富兵庫茂安は、「水を走らせず、どうすれば水がゆっくり歩くか」を考え、元和（1615～24）より寛永にかけて佐賀城下への取水と洪水防御のために、心魂を労して石井樋を築きました。石井樋で取水された用水は、多布施川の井樋からつながる約2000kmに及ぶ水路網を通して、佐賀城堀の防衛水・飲料水（今は水道用水）・生活用水・反射炉の用水・周辺地域の農業用水として利用されてきました。多布施川は、地域住民の生命線となるきわめて重要な河川で、流域の小中学校の校歌にも歌われています。

今からおよそ180年前の多布施川は、川幅がおよそ18m、深さが90cmほどあり、現在よりも水量が多かったようです。

（『疎導要書』天保5年（1834）に、「多布施川広サ十間 深サ凡 三尺 ……」とある。）

◆ 川を守り、水質を維持するため、川干（河川の一斉清掃）が行われ、今も市民によって続けられています。

また、佐賀市街飲料水線取締規則（M19年）により、塵埃投棄の禁止、遊泳や立ち入りの禁止、毎日午前10時までの洗浄なども禁止し、違反者については、科料により処罰していました。※大正5年に地下水源を使った上水道が敷設され、城下町へ飲料水を供給するという役目は終わった。

昭和29年3月に神野浄水場ができてからは、多布施川の水を浄水場の用水として利用するようになりました。

◆ 多布施川は、昔は物資運搬の舟や屋形船が行きかう重要な水路交通の役割も担っていました。当時は、護国神社前のタナジ（棚路）から発着していて、1854年の籠帳に「川舟差し11戸」とあり、川沿いには、船頭さんたちの家もあったようです。（神野小学校百周年記念誌に、川上までの遠足の帰りに、川舟で象の鼻から石井樋を通して神野公園まで、多布施川の川下りを楽しんだ様子が記載されています。）

現在は、カヤックでの川下り、ウォーキングやサイクリング、花見などを楽しむ市民の憩いの場となっています。

◆ 多布施川の清らかな流れは、日本の疎水百選に選ばれ、流域の水路には、今でもゲンジボタルやヘイケボタルが飛び、アオハダトンボやカゼトゲタナゴなどの絶滅危惧種をはじめ多様な生き物を育てています。

多布施川の流路



出典:大井手分水工の説明看板図に流路を追加記入

多布施川は、嘉瀬川本流の大井手堰から、象の鼻と天狗の鼻の間を流れる嘉瀬川分流の左岸にある石井樋から取水し、自然堤防が残り、名前の由来となった多布施方面へ、植木井樋、城井樋、後毛井樋、御茶屋井樋などで、市内を巡る水路網へ配水しながら神野公園の東側を流れ下ります。

長崎本線の鉄橋を越えた大井手分水工で、天祐寺川(大井手幹線水路)へ分流した後、南東方向に流路を変え、自然堤防が残る栄橋手前で大きく東に流路をかえます。

このあたりから堤防はなくなり、東⇒南⇒東⇒南へと流路を直角に変えながら、多布施井樋、大覚寺井樋、善左衛門井樋、辻の堂井樋、松原井樋などで配水して、北堀取水井樋、西堀取水井樋で北濠と西堀に配水し、北御門から城内に入り、栄城橋から流路を北⇒東⇒北⇒東へと逆流するように変えて東御門から城外に出ます。ここから龍谷高校の下を通って、南濠の東側を流れ、筋違橋の所で南濠へつながる水路へ配水した後、東⇒南へと流路を変えながら大崎樋門まで流れ下り、八田江に排水されます。

(全長約9.5kmの一級河川)



上流部 (14) 幹線水路からの取水口付近



上流部 (3) 植木水位観測所付近



中流部 (2) 大井手分水工付近



中流部 (14) 栄橋付近

※この付近で自然堤防がなくなる



下流部 (7) 北御門跡付近

※ここから城内を流れる

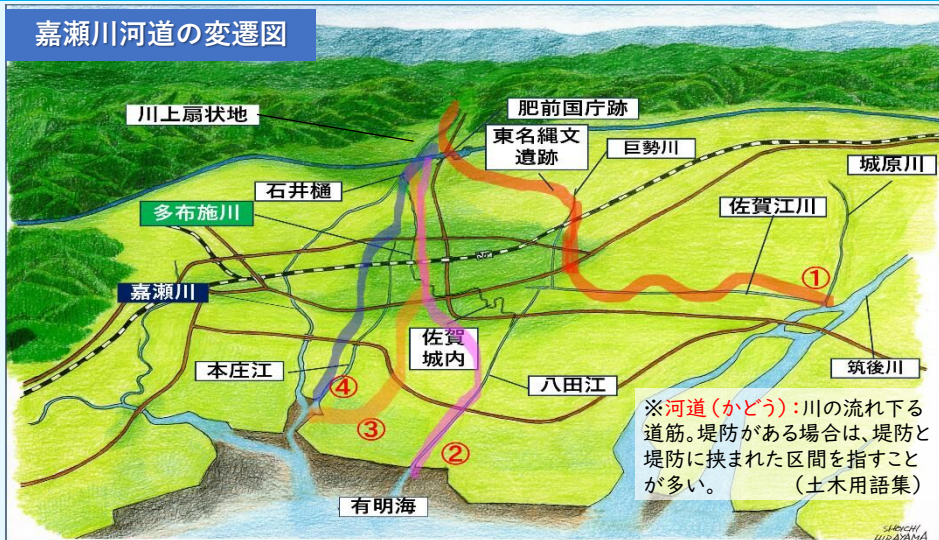


最下流部 (3) 大崎樋門

※ここから八田江に排水

● 嘉瀬川河道の変遷と多布施川

嘉瀬川河道の変遷図



注) この鳥瞰図は、嘉瀬川河道の西への移動をわかりやすく説明するため、下記出典資料に記載している内容から、嘉瀬川の旧河道(平常時に流れる本流)をイメージ的に記入したものです。
 当時は、ここに掲載している本流のほか、洪水時や水量が多いときに流れる幾筋もの分流が存在し、分流の一部は、平常時にも利用されていたと想定されます。
 この鳥瞰図は、現在の海岸線で作成しているため、当時有明海であったところは、濚筋だったと想定されます。 ※濚筋(みおすじ):海ではデルタ河口部の浅海や干潟地帯で、1~5m位の深さで水の流れる筋が濚筋です。(土木用語集)

嘉瀬川(旧佐嘉川)旧河道が筑後川によって西へ徐々に移動

縄文時代 今から八千年前の東名縄文遺跡(巨勢川調整池に埋戻して現状保存)は、有明海の入り江に面した嘉瀬川の河口にあったと想定されます。

【奈良時代の本流】(肥前国庁⇒諸富大津⇒有明海への重要な水路交通路)
 ① 肥前国庁跡は、川上扇状地の陸路と水路交通網の要衝に位置する。
 市の川⇒巨勢川⇒佐賀江川⇒筑後川に合流し有明海に注ぐ。

② 【平安・鎌倉時代の本流】
 本流はさらに西に移動して、八田江湖(八田江)の線まで移る。

【多布施川】
 ③ 律令時代は、流域の条理地域を潤していた。戦国時代は、嘉瀬川の分流(平安・鎌倉時代の本流)として、石井樋の前身の北村井樋から取水。

④ 【戦国時代の本流】
 本流は、さらに西に移動して、本庄江の西の方に移る。

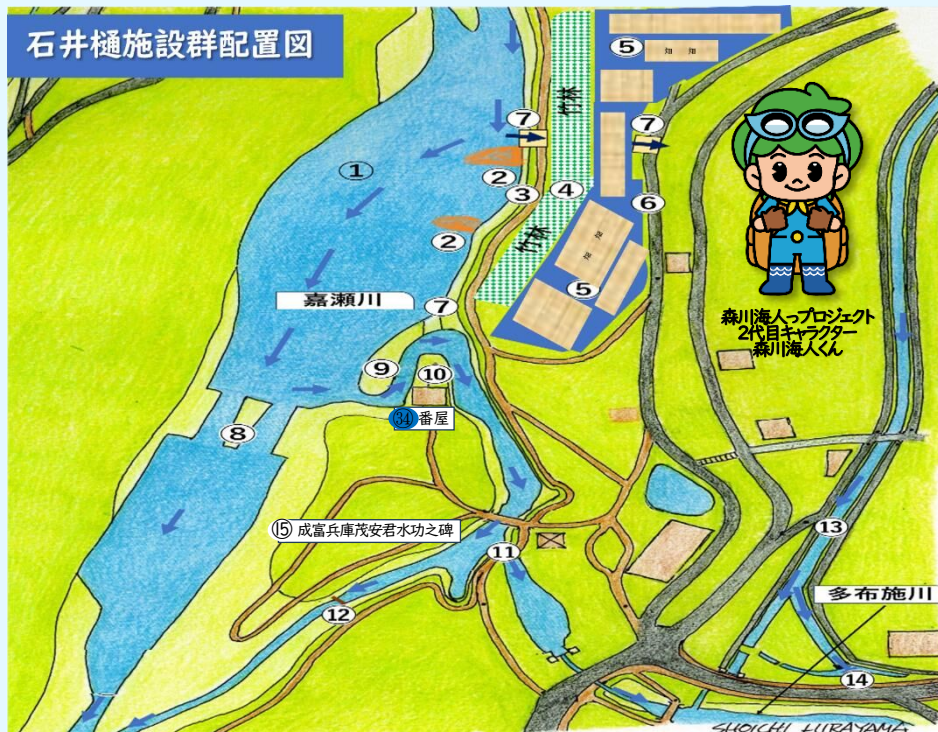
【現在の本流】
 現在 近世初頭に現在の河道に移り、成富兵庫茂安が石井樋と筑後川に千栗土居(堤防)を築いたことで、河道が安定し現在に至る。

出典:佐賀市史第一巻 地理的環境 佐賀平野の水誌 嘉瀬川p67-71 多布施川と小津江、本庄江湖 p81-87
 佐賀市の川と橋 深川 保著 佐賀市建設部監理課 嘉瀬川 p2 多布施川 p22 大覚寺井樋水路 p66
 縄文の奇跡 東名遺跡 歴史をぬりかえた縄文のタイムカプセル 佐賀県教育委員会

● 石井樋施設群 (構築の理念と役割) 【治水施設】

● 成富兵庫茂安は、400年前に石井樋を構築

1. 「水を走らせず、どうすれば水がゆっくり歩くか」を考え、石井樋を構築し、嘉瀬川の河道が安定して、現在に至る。
2. 多布施川に綺麗な水を必要量取り込み、余分な水は本流に戻して、下流(低平地)へ流す。



1. 石井樋施設群 (水の流れを弱め、洪水を防ぐ施設)

番号	施設名	役割
①	川幅を広げる。	川幅を広げて、川の流れを弱めます。
②	荒籠	川の流れの向きを変えたり、弱めたりして堤防を守ります。
③	内堤防	平常時に、川の流れを集めて流量を確保して、取水しやすいようにします。 洪水時、内堤防を越えた水は遊水地にあふれさせ、更に野越から平野に流します。
④	竹林	あふれてきた川の水の勢いを弱め、土砂やごみなどが遊水地の畑に流れ込まないようにします。(フィルター役目)
⑤	遊水地(畑)	大雨の時に一時的に水を貯水して、下流の洪水等を防ぎます。
⑥	本堤防	遊水地の水を受け止め、遊水地で受け止められなくなったときは、野越を通じてあふれさせて、堤防外の広い範囲で水を受け止め、洪水の被害を抑えます。
⑦	野越	堤防の一部をわざと低くして、洪水時にここから川の水を堤防の外にあふれさせ、堤防を守ります。

石井樋施設群(役割)【利水施設】と川上頭首工

2.石井樋施設群(きれいな水を必要量取り込む施設)

番号	施設名	役割
⑧	大井手堰	1.土砂がまざった嘉瀬川の水は象の鼻で流れが川の中央に寄り、大井手堰にぶつかります。そのとき水に含まれた土砂の一部が川底に沈みます。
⑨	象の鼻	2.大井手堰にぶつかった水は逆流してゆるやかな流れになり、土砂を少しづつ川底に沈めながら象の鼻と天狗の鼻の方へ流れていきます。
⑩	天狗の鼻	3.象の鼻と天狗の鼻の間を通るうちにさらに流れはゆるやかになり、土砂のないきれいな水を石井樋に導きます。
⑪	石井樋	必要な水量を多布施川に流し、余分な水は、二の井手堰を越えて本流へ戻します。
⑫	二の井手堰	余分な水を本流へ戻します。

出典:水の恵みを未来へと 石井樋と佐賀の水 国土交通省九州地方整備局武雄河川事務所
今にいきづ川ものかたり 成富兵庫茂安 編集 土木のイメージアップ 連絡協議会/春日小学校(社会科部)

川上頭首工から多布施川への取水施設

⑬	大井手幹線水路	川上頭首工で取水した農業用水を、多布施川等に送ります。
⑭	多布施川取水口	大井手幹線水路から送られてくる農業用水を多布施川へ流します。



⑪石井樋(多布施川取水口)

⑬大井手幹線水路(上流部)

⑭大井手幹線水路から取水

●多布施川へ2か所からの取水。

- 1.嘉瀬川⇒川上頭首工⇒大井手幹線水路(上流部)⇒多布施川
農業用水として
- 2.嘉瀬川⇒石井樋⇒多布施川
河川維持用水(水質維持・生態系保護等に必要の水)として



参考資料:多布施川の水を考える 佐賀市水対策市民会議 資料

井樋と水路の特徴と役割

多布施川流域の井樋には、⑦井樋の下流側に堰があり、取水口が上流側に角度がついていて、井樋の出口の水路側が池のように広がっているタイプの井樋。(御茶井樋より上流の後毛井樋、城井樋、植木井樋等)、①井樋の取水口が流れに対して直角で、井樋の出口が少し広がっているタイプの井樋(セダン井樋や瀬戸井樋)、②井樋の取水口が流れに対して直角で、井樋の出口と水路が同じ広さの井樋(大覚寺井樋等)。④井樋の取水口が円形の簡易タイプの井樋(ミゾタ井樋、日赤前井樋)があります。

上流側から、⑦のタイプの井樋(広範囲に生活水や農業用水を送る主要水路の取水を担う)、次に①のタイプの井樋、②のタイプの井樋と形が変わり、城内北井樋より下流には井樋はなく、多布施川の水が直接水路に分流する形になっています。

また、井樋等で取水された水は、水路の上流部から飲料水(今は水道用水)や生活水⇒不足する農業用水などに再利用されながら、排水河川に流れ、海に排水されます。



⑬ 蛭久井樋



⑱ 植木井樋



⑲ 城井樋



⑳ 御茶屋井樋



㉑ 大井手分水工



㉒ 多布施暗渠



㉓ 大覚寺井樋



㉔ 善左衛門井樋



㉕ 小林井樋



㉖ 中の小路井樋



㉗ 松原(ポンポン)井樋



㉘ 北堀取水井樋と北濠



㉙ 大崎樋門

佐賀城内を流れる多布施川と佐賀城お濠の水

佐賀城内をどのように流れているの？
また、佐賀城のお濠の水は、どこからきてどこへ流れているの？



多布施川は、佐賀城の北御門跡に続く道の西側を流れ、北濠を越えて城内に入って東⇒南⇒東と流れ、栄城橋から向きを変えて北⇒東⇒北⇒東へと逆流するように流れ、東御門跡から城外の武家屋敷の方へと流れているよ。

堀と交わる部分では、立体交差して濠の上を流れ、飲料水として利用されていたため、濠の水と交わらないようになっているよ。

濠の水は、北御門跡の少し北側の左岸（下流に向かって左側）にある北堀取水井樋と右岸にある西堀取水井樋、南濠南東隅の多布施川から分流する小水路（起伏堰）から入るようになっているよ。

一方濠の排水は、赤松小学校前交差点の北西角にある南濠井樋1か所から行われているよ。

市中心部が大雨の時に冠水することから、県と市は南濠井樋からの自然排水で、濠の水位を事前に下げて、濠を調整池（お濠貯留）として活用（約58,000トンの容量確保）。さらに、南濠に流入する水路の起伏堰を立てて、多布施川へポンプ車で強制排水する実証実験が行われ、さらに約6,400トンの容量が確保できることがわかったんだよ。

お濠と多布施川の水位を比べてみるとよくわかるよ！

参考資料：佐賀市プレスリリース <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000120.000055607.html>



森川海人→プロジェクト
初代キャラクター
森川海人くん



②⑧北堀取水井樋



②⑨西堀取水井樋



③⑩南濠への流入水路（起伏堰）



②⑩南濠井樋（自然排水）



②⑩南濠井樋に続く水路



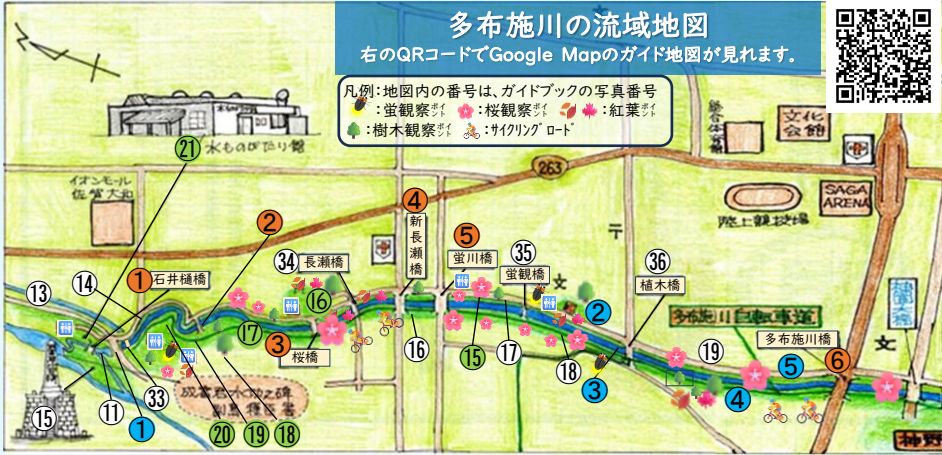
多布施川流域ガイド(上流域)

多布施川の流域地図

右のQRコードでGoogle Mapのガイド地図が見れます。



凡例：地図内の番号は、ガイドブックの写真番号
 ●：蛍観察 ●：桜観察 ●：紅葉 ●：樹木観察 ●：サイクリングロード



21 さが水ものがたり館
石井樋など川や水に関する学習施設



21 さが水ものがたり館展示
石井樋施設群のジオラマ模型展示



33 石井樋橋1979.9竣工
最上流に架かる橋



20 多布施川河畔公園東屋
多布施川の生き物紹介パネルが設置



19 多布施川河畔公園ヒートアップ水路
ゲンジボタルとヘイケボタルが共に生息



2 多布施川河畔東側の太鼓橋
ハシなどの水鳥観察/岸にモミジ/ウヤヌマシギ、メタセコイアの林がある。



3 さくら橋 1989.7竣工
左岸側の桜並木が美しい。上流にカヤック用のタナジがある。



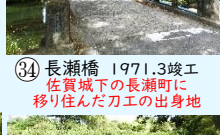
34 長瀬橋 1971.3竣工
佐賀城下の長瀬町に移り住んだ刀工の出身地



4 新長瀬橋 2001.1竣工
橋の欄干には、ボタルや桜のレリーフがある。



15 多布施川左岸の人工河川蛭川
マユチアカネやハグロンボ等が観察できる



17 ヨカミン(高木)井樋
以前この付近で、キジを観察



35 蛭観橋1988.3竣工
多布施川左岸側人工河川蛭川に架かる橋



36 植木橋
2025.11竣工



4 後毛井樋



5 交叉井樋



36 植木橋
2025.11竣工



4 後毛井樋



5 交叉井樋

- ### 流域のポイント
- 21 さが水ものがたり館 [P] 石井樋など川に関する学習施設 石井樋施設群のジオラマ模型
 - 1 石井樋橋(中の島)2002.5竣工
 - 11 石井樋(多布施川への取水口)
 - 33 石井樋橋 1979.9竣工 最上流の橋
 - 1 石井樋排水樋管
 - 14 取水口【左岸】(大井手幹線水路からの取水)
 - 18 多布施川河畔公園 [P] ヌマシギ(沼杉)の林
 - 19 ピオトップ水路
 - 20 生物パネル展示東屋 [P]
 - 2 太鼓橋
 - 17 屋外トレーニング施設
 - 3 さくら橋 1989.7竣工
 - 16 大イチョウ(長瀬天満宮)
 - 34 長瀬橋 1971.3竣工
 - 4 新長瀬橋 2001.1竣工
 - 16 蛭久井樋【右岸】水位観測装置
 - 5 蛭川橋1986.11竣工 [P] 左岸の人工河川蛭川 トンボや樹木観察
 - 17 ヨカミン(高木)井樋【左岸】
 - 35 蛭観橋1988.3竣工 観察用の歩道橋/桜の案内板
 - 18 植木井樋【右岸】
 - 3 植木水位観測所【左岸】
 - 36 植木橋2025.11竣工 最も新しい橋
 - 19 城井樋【左岸】
 - 4 後毛井樋【右岸】
 - 5 交叉井樋【左岸】
 - 6 多布施川橋1971.3竣工

多布施川流域ガイド(中流域)



⑦ 神園大橋 1980.3竣工
上流に御茶屋井樋がある
下流域は紅葉がきれい。



③⑦ 梅榎橋 1924.7竣工
日本で最大級の石桁橋
土木学会選奨土木遺産



⑭ 神野公園(隔林亭)
ここでお茶をいただける
(有料)



⑫ 神野公園トンボ池
トンボのモニュメントあり、
チョウトンボなどが生息



⑨ 新梅榎橋 1979.1竣工
橋の下流側右岸に
瀬戸井樋と間黒松がある。



⑪ アイグロマツ(間黒松)
昔の松並木の名残
松の上流側に瀬戸井樋がある

流域のポイント

- ⑫ 御茶屋井樋【右岸】
- ⑦ 神園大橋 1980.3竣工
- ⑧ 公園北橋 1976.8竣工
- ③⑦ 梅榎橋 1924.7竣工
土木遺産 日本最大級の石桁橋
- ⑥ センダン井樋【左岸】
- ⑭ 神野公園(隔林亭)
- ⑬ 神野公園遊園地
- ⑫ 神野公園トンボ池
- ⑨ 新梅榎橋 1979.1竣工
- ⑦ 瀬戸井樋【右岸】
- ⑪ アイグロマツ(間黒松)
昔の松並木のなごり
- ⑩ 昭和橋 2010.12竣工
- ⑧ 寺井樋【左岸】
- ③⑧ JR多布施川橋梁
1895年開通の長崎本線に架かる鉄橋
- ⑨ 名称不明井樋【左岸】
- ② 大井手分水工【右岸】
- ⑪ 多布施橋 1973.3竣工
- ⑩ 幸蔵井樋【多布施橋南左岸】
- ⑪ 佐工井樋【多布施橋南右岸】
- ⑩ アイアカマツ(間赤松)
- ⑫ 青木井樋【右岸】
- ⑫ 新青木橋 1963.3竣工
- ⑨ 佐賀藩科学技術研究所跡
- ⑬ 多布施新橋 1989.12竣工
- ⑫ 多布施暗渠【左岸】
- ⑫ 栄橋 1980.3竣工
- ⑧ 多布施反射炉跡
- ⑭ 多布施井樋【左岸】
- ③⑨ 開運橋 1935.5竣工
佐賀城下の多布施町と
岸川間に架かる橋



③⑧ JR多布施川橋梁
1895年開通の
長崎本線に架かる鉄橋



⑪ 多布施橋 1973.3竣工
橋の下流側左岸に幸蔵井
樋、右岸に佐工井樋がある。



⑫ 新青木橋 1963.3竣工
上流右岸側に青木井樋と
アイアカマツが見られる。



⑨ 佐賀藩科学技術研究所跡碑
蒸気機関車模型の
走行試験の様子(右)



⑫ 多布施川暗渠
多布施川の川底で立体交差する
十間堀川と地蔵川を結ぶ暗渠



⑭ 栄橋 1980.3竣工
この上流で流路が東側に大き
く曲がり、自然堤防がなくなる。



⑧ 多布施反射炉跡記念碑
幕府の依頼で作られた
製作するの、蒸気、水車の動力で砲身を削る



⑭ 多布施井樋
多布施井樋の出口側の水路
上に恵比寿様が祀られている。



③⑨ 開運橋 1935.5竣工
佐賀城下の多布施町と
岸川間に架かる橋

多布施川流域ガイド(下流域)



多布施川の概要
 始まりの石井樋から八田江川への合流点までのおおまかな流路と史跡、主な橋名、トイレ、近くの公共施設、周辺の道路など



④⑩ 伊勢多布施橋2001.9竣工
橋の袂に昔のタジが残っている。この周辺は、映画「悪人」のロケ地となった。



④① 善左衛門橋1764.7竣工
善左衛門が私財でかけた橋。明治33年に一部補修(橋の右側に古い欄干が残っている。)



①⑦ 辻の堂橋1951年頃竣工
橋の袂に延命地藏尊が祀られている



①⑧ 更生橋 1937.7竣工



④③ 赤松橋1936.3竣工
流れは、赤松橋からお濠を跨いで、城内に入る。



②④ 栄城橋1990.3竣工
ここから上流方向へ向かって流れる。



④④ 厩橋と棚路1990.3竣工
多布施川はこの付近では上流方向へ流れる。



④⑤ 本丸橋 1974.10竣工
東御門の西側にあり、ここから流れが東に変わる。



⑥ おもいやりの森(公園)
1月に咲く寒桜など10種類ほどの桜が見れる



⑤ 東御門跡(城内の入り口)
このほか、北御門、西御門・裏御門があった



③ 万部島(万部塔1基がある)
歴代藩主が法華経一万部を読誦させ納経



② 佐賀城跡の門・佐賀城跡
佐賀城本丸歴史館(城の歴史等を展示)



②① 愛右衛門橋1983.10竣工
佐賀城下の総3式構られている橋



① 佐賀馬鉄の停車場跡の碑
明治37年に馬賣場〜諸富間で営業



④⑥ 新郷橋1993.3竣工
多布施川最下流にこの橋

流域のポイント

- ⑮ 木ノ下井樋【左岸】
- ⑳ 大覚寺井樋【右岸】
- ⑰⑮ 三角橋1953年竣工
- ④⑩ 伊勢多布施橋2001.9竣工
- ④① 善左衛門橋1764.7竣工(明治33年に一部改修)最も古い橋
- ②④ 善左衛門井樋【右岸】
- ④② 護国神社太鼓橋
- ②⑤ 小林井樋【左岸】
- ③② 遊泳場(夏に開設)
- ①⑥ 中川橋 1963.7竣工
- ②⑥ 中の小路井樋【左岸】
- ①⑦ 辻の堂橋1951年頃竣工
- ①⑧ 辻の堂井樋【右岸】
- ①⑧ 更生橋1937.7竣工
- ②⑦ 松原(ポンポン)井樋【左岸】
- ④③ 赤松橋1936.3竣工
- ④⑦ 北御門跡
- ④⑨ 通学橋1990.3竣工
- ②④ 栄城橋1990.3竣工
- ④④ 厩橋と棚路1990.3竣工
- ④⑤ 本丸橋 1974.10竣工
- ⑥ おもいやりの森 ☆桜
- ⑤ 東御門跡
- ④ イヌマキ(万部島)
- ③ 万部島
- ② 佐賀城跡(佐賀城本丸歴史館)
- ②① 愛右衛門橋1983.10竣工
- ① 佐賀馬鉄停車場跡の碑
- ④⑥ 新郷橋1993.3竣工
- ③① 大崎樋門

I 多布施川水利施設等一覧表

地図 番号	施設名称	場所	地図 番号	施設名称	場所
	【治水施設】		12	青木井樋	多布施川右岸
①	嘉瀬川(本流の川幅拡張)	嘉瀬川	22	多布施暗渠	多布施川左岸
②	荒籠	嘉瀬川左岸	13	ミゾタ井樋	多布施川右岸
③	内堤防	嘉瀬川左岸	14	多布施井樋	多布施川左岸
④	竹林	嘉瀬川左岸	15	木ノ下井樋	多布施川左岸
⑤	遊水地(畑)	嘉瀬川左岸	23	大覚寺井樋	多布施川右岸
⑥	本堤防	嘉瀬川両岸	24	善左衛門井樋	多布施川右岸
⑦	野越	嘉瀬川左岸	25	小林井樋	多布施川左岸
			16	日赤前井樋	多布施川右岸
	【利水施設】(多布施川取水)		26	中の小路井樋	多布施川左岸
⑧	大井手堰	嘉瀬川	17	妙安寺(万才)井樋	多布施川右岸
⑨	象の鼻	嘉瀬川	18	辻の堂井樋	多布施川右岸
⑩	天狗の鼻	嘉瀬川中の島	19	堀川井樋	多布施川右岸
⑪	石井樋	嘉瀬川分流左岸	20	堀川更生橋井樋	多布施川右岸
⑫	二の井手堰	嘉瀬川分流	27	松原(ポンポン)井樋	多布施川左岸
⑬	成富兵庫茂安君水功之碑	嘉瀬川中の島	28	井樋(北堀取水・西堀取水)	多布施川両岸
31	番屋	嘉瀬川中の島	21	西高前(佐高)井樋	多布施川右岸
			22	県庁裏井樋	多布施川左岸
	【利水施設】(多布施川取水2)		23	佐大前水路	多布施川右岸
13	大井手幹線水路(上流部)	多布施川左岸	24	城内南井樋	多布施川右岸
14	多布施川取水口(分水工)	多布施川左岸	25	城内北井樋	多布施川右岸
			26	会所小路水路	多布施川左岸
	【利水施設】(井樋・水路等)		27	龍谷水路	多布施川左岸
1	石井樋排水樋管	多布施川	28	筋違水路	多布施川左岸
16	蛸久井樋	多布施川右岸	29	南濠井樋	南濠
17	ヨカミヅ(高木)井樋	多布施川左岸	30	南濠水路 起伏堰	多布施川右岸
18	植木(今)井樋	多布施川右岸	29	中の館1号水路	多布施川右岸
2	トントロ井樋	多布施川左岸	30	白骨曲水路	多布施川右岸
3	植木多布施川水位観測所	多布施川左岸	31	南水2号水路	多布施川右岸
19	城井樋	多布施川左岸	32	南水3号水路	多布施川右岸
4	後毛井樋	多布施川右岸	33	南水4号水路	多布施川右岸
5	交叉井樋	多布施川左岸	31	大崎樋門	多布施川(八田江)
20	御茶屋井樋	多布施川右岸			
6	センダン井樋	多布施川左岸		【利水施設】(その他)	
7	瀬戸井樋	多布施川右岸	32	遊泳場(夏に開設)	護国神社東側
8	寺井樋	多布施川左岸	35	佐賀導水管モニュメント	さくらばし西側
9	井樋(多布施四丁目)	多布施川左岸	36	佐賀導水多布施川分水工	新長瀬橋南右岸
21	大井手分水工(天祐寺井樋)	多布施川右岸	37	桜橋北側タナジ(船着き場)	橋の上流両岸
10	幸藏井樋	多布施川左岸	38	梅檀橋タナジ(船着き場)	梅檀橋上流右岸
11	佐工井樋	多布施川右岸	39	護国神社のタナジ(船着き場)	太鼓橋上流左岸

注：背景色無番号の施設は、ガイドブック及びガイドパンフレットの絵地図とGoogle Mapに掲載
背景色有番号の施設は、Google Mapには、すべて掲載していますが、ガイドブックやパンフレットには、紙面の関係で掲載されていないものがあります。



多布施川に架かる橋及び公園・史跡・その他 一覧表

2025.11.30現在

2多布施川に架かる橋一覧表

地図番号	名称	竣工	場所	地図番号	名称	竣工	場所
①	石井樋橋	平成14年5月	嘉瀬川(中の島入口)	17	辻の堂橋	昭和26年	辻の堂北側
33	石井樋橋	昭和54年9月	多布施川河畔公園北入口	18	更生橋	昭和12年7月	NTT西南
2	太鼓橋	不明	多布施川河畔公園東入口	13	赤松橋	昭和11年3月	警察本部前 横
3	さくらばし	平成元年7月	長瀬天満宮北西	10	若葉橋	不明	公園(西端端)入口
34	長瀬橋	昭和46年3月	長瀬天満宮南西	19	通学橋	平成2年3月	西高校前
4	新長瀬橋	平成13年1月	佐賀記念病院西側	20	栄橋	平成6年9月	議会棟・県庁間の南
5	蛭川橋	昭和61年11月	佐賀工場団地北西	22	赤松橋	平成6年6月	県庁南側
35	蛭観橋	昭和63年3月	ホテル川	23	名前不明	不明	古文書館
36	植木橋	令和7年11月	蛭久天満宮下宮横	24	栄城橋	平成2年3月	佐賀城本丸入口
6	多布施川橋	昭和46年3月	多布施川橋横	44	厩橋	平成2年3月	佐賀城本丸入口北側
7	神園大橋	昭和55年3月	カゲセリニワ横	45	本丸橋	昭和49年10月	市村記念体育館南側
8	公園大橋	昭和51年8月	神野公園北東	25	二ノ丸橋	昭和50年3月	市村体育館南東側
37	梅檀橋	大正13年7月	神野公園入口	26	万部島の橋	不明	万部島入口
9	新梅檀橋	昭和54年1月	神野公園東南	27	相生橋	1958(昭33)年	佐賀デパート北西側
10	昭和橋	平成22年12月	昭和橋	28	千城橋	昭和12年6月	城内通り龍谷高校北側
38	多布施川鉄橋	鉄道橋	JR長崎本線	29	四っ手橋	昭和39年8月	龍谷こども園南
39	名前不明	不明	多布施川通り-緑小路	30	筋違橋	昭和17年5月	南堀東南側
39	名前不明	不明	多布施川通り-緑小路	31	東南橋	昭和32年1月	市道横小路線
11	多布施橋	昭和48年3月	佐賀工業高校北東	21	愛右衛門橋	昭58年10月	横小路 南側
12	新青木橋	昭和38年3月	お堂横	32	大橋橋	昭和62年12月	水ヶ江大崎 西側
13	多布施新橋	平成元年12月	佐賀藩理学研究所跡南東	33	南大崎橋	平成6年8月	水ヶ江大崎 横
14	栄橋	昭和55年3月	肥前醬油北西	34	中大崎橋	昭和63年3月	佐賀大崎郵便局横
35	名称不明橋	不明	ミゾタ本社北東	35	東大崎橋	昭和44年3月	大崎 横
39	開運橋	昭和10年5月	ミゾタ本社南東	46	新郷橋	平成5年3月	八田 横
15	三角橋	昭28年	伊勢町 北西				
40	伊勢多布施橋	平成13年9月	伊勢町 北側				
41	善左衛門橋	明和元年7月	護国神社北西側				
42	護国神社太鼓橋	不明	護国神社参道				
39	神社前橋	不明	護国神社参道				
16	中川橋	昭和38年7月	護国神社前				

※2025.9~11の現地調査に基づき作成。現地で橋名等の判別ができなかった分は、佐賀市の川と橋から出典。

3 公園・史跡・その他

地図番号	施設名称	場所	地図番号	施設名称	場所	地図番号	施設名称	場所
1	佐賀馬鉄停車場跡	愛右衛門橋	8	多布施反射炉跡	栄橋下流右岸	15	多布施川左岸人工河川 蛭川	蛭観橋付近
2	佐賀城跡		9	佐賀藩科学技術研究所跡	多布施新橋右岸上流	16	大イチョウ	長瀬天満宮
3	万部島		10	アイアカマツ(間赤松)	新青木橋右岸上流	17	屋外トレーニング場	多布施川右岸
4	イヌマキ	万部島	11	アイグロマツ(間黒松)	新青木橋右岸下流	18	ヌマスギ(沼杉)	多布施川河畔公園
5	東御門跡		12	神野公園トンボ池		19	ピオトープ水路	
6	おもいやりの森	県庁東側	13	神野公園遊園地		20	東屋(生物案内パネル)	
7	北御門跡	県庁西側	14	神野公園隔林亭		21	さが水ものがたり館	石井樋

注：背景色無番号の施設は、ガイドブックの絵地図とGoogle Mapに掲載しています。

背景色有番号の施設は、Google Mapには、すべて掲載していますが、ガイドブックには、紙面の関係で掲載していないものがあります。

多布施川流域ガイド 生物観察編



昼間のホタル観察（多布施川河畔公園ビ・ホップ水路）2023.5.14

多布施川流域の生物概要

多布施川流域では、一年を通じていろんな生き物観察が楽しめます。

自然堤防が残る多布施の栄橋から石井樋までの両岸には、常緑樹や落葉樹など多様な木々が見られ、川沿いに整備された遊歩道を歩きながら、冬芽、芽吹き、新緑、桜やエゴノキなどの花、ヤマモモなどの実りを観察でき、五感で季節の変化を感じることができます。その途中で、木の実や花の蜜、樹液を求めてやってくる野鳥や昆虫に出会うこともあります。

遊歩道の脇には、意識して歩かないと見過ごしますが、小さな可憐な花を咲かせた野草が早春から晩秋まで見られます。デジカメやスマホのカメラで撮って拡大したり、虫眼鏡で見たりして花を観察するとその美しさに魅了されます。時には、小さな花が集団で咲いている花畑に出会うこともあります。

また、冬鳥がやってくる秋から春にかけて、40種類以上の野鳥が観察できます。遊歩道を歩いていると、道端でエサ取りをしているアオジやシロハラなどを見かけることもあり、たまに、木を連打するような音が聞こえてくると、コゲラ（キツツキの仲間）がエサ取りをしている様子も観察できます。

多布施川流域では、水辺で暮らすトンボや水中で暮らすたくさんの生物が見られ、環境省や佐賀県のレッドリストに掲載されている絶滅危惧種も生息しています。

このガイドブックでは、多布施川の水質を示す指標生物になっている水生生物と昔から人々に愛されてきた桜と蛍、多布施川の四季の風景、多布施川流域の生物観察おすすめスポット、多布施川で見られる主な生物を淡水魚、トンボ、チョウとガ、野鳥、樹木、野草の順に写真で紹介しています。

そこで使用している用語の解説を下記にしますので、参考にしてください。

◆用語の説明 ※の番号：各区分ごとの引用文献の番号（巻末掲載）

【淡水魚】 **全長**：体の最も長い線。（体の前端から真っすぐに伸ばした状態の尾びれの後端まで）※1

【トンボ】 **全長**：頭からお尻の先までの長さ。※2 【チョウやガ】 **開張**：羽根を広げた長さ。※2

【ホタル】 **体長**：触角を含まない頭からお尻までの長さ※2

【野鳥】 **全長**：嘴の先から尾の先までの長さ。 **留鳥**：ある地域で1年中見られる鳥。

漂鳥：北日本や山地で繁殖し、冬期に西日本などの暖地や低地に移動するような比較的短い移動をする鳥。

夏鳥：春に南の地域から渡ってきて繁殖し、秋には南の地域に渡って冬を過ごす鳥。

冬鳥：秋に日本より北の地域から渡ってきて冬を越し、春には北の地域に戻って繁殖する鳥。

旅鳥：日本より北で繁殖し、日本より南で冬を越す鳥。※1

【野草や樹木】 ☆：花が咲く時期 **果期**：実がなる時期 **帰化植物**：外国から日本に侵入し、定着した植物※9

●：環境省レッドリスト ●：佐賀県レッドリスト 【川の**右岸**と**左岸**】：下流にむかつて**右側**と**左側**

◆生き物たちが示す多布施川のきれいな水質（スコア値注）

多布施川水域には、スコア値6のゲンジボタルの幼虫からスコア値8のモンカゲロウの幼虫などが生息している。（平均スコア値は7程度）

注）**スコア値**：水生生物による河川の水質調査法の1つ「スコア法」で使われる水生生物の指標値。1から10の数値で、1が最も汚い水域で、10が最もきれいな水域を示す。 ※5.6.8.9.10.12



トゲナベプタムシ
ナベプタムシ科(スコア値7)
2021.11.23多布施川左岸
●2020絶滅危惧Ⅱ類(VU)
●2023絶滅危惧Ⅱ類種



コオニヤンマの幼虫(ヤゴ)
サナエドボ科(スコア値7)
2016.7.17多布施川左岸



ゲンジボタルの幼虫
ホタル科(スコア値6)
2019.8.25鳴取川



モンカゲロウの幼虫
モンカゲロウ科(スコア値8)
2013.4.20天祐寺川

多布施川流域の観察ポイント絵地図



【このガイドブックに掲載している写真等の番号について】

写真等の番号と背景色で、このガイドブックの絵地図とGoogle Map上の位置を確認できます。

⑦番号①：主な水利施設と橋で、ガイドブックの絵地図とGoogle Mapに掲載しています。

①番号①：⑦以外の水関係の施設。⑦番号①：⑦以外の橋。⑤番号①：公園・史跡等

※背景色有番号の施設は、Google Mapには、すべて掲載していますが、ガイドブックには、紙面の関係で掲載していないものがあります。※下流域の絵地図は11ページに、番号の一覧表は12-13ページに掲載

※Google MapのQRコードをこの絵地図に掲載しているので、詳しい位置を確認することができます。

なお、Google Mapでは、番号①⇒①、①⇒① ⇒ ①、① ⇒ ① の表示になります。

観察ポイント頭のA~Gは、地図上のゾーン(範囲)を示しています。

公園・史跡等一覧表

地図番号	施設名称	場所	地図番号	施設名称	場所	地図番号	施設名称	場所
①	佐賀馬鉄停車場跡	愛右衛門橋	⑧	多布施反射炉跡	米橋下流右岸	⑮	多布施川左岸人工河川 蜚川	蜚観橋付近
②	佐賀城跡		⑨	佐賀藩科学技術研究所跡	多布施新橋右岸上流	⑯	大イチョウ	長瀬天満宮
③	万部島		⑩	アイアカマツ(間赤松)	新青木橋右岸上流	⑰	屋外トレーニング場	多布施川右岸
④	イヌマキ	万部島	⑪	アイグロマツ(間黒松)	新榎樹橋右岸下流	⑱	ヌマスギ(沼杉)	多布施川河
⑤	東御門跡		⑫	神野公園トンボ池		⑲	ピオトープ水路	畔公園
⑥	おもいやりの森	県庁東側	⑬	神野公園遊園地		⑳	東屋(生物案内パネル)	
⑦	北御門跡	県庁西側	⑭	神野公園隔林亭		㉑	さが水ものがたり館	石井橋

● 多布施川の桜と蛍 (🌸)

● 多布施川の桜と蛍

佐賀市史下巻p471に「水は川上、さくらは神野、夏は多布施の舟遊び、フツと見そめた娘の肩に、憎くや蛍が飛んで来る」と歌で紹介されているように、桜と蛍は昔から人々を魅了してきた文化的生物であり、今も多布施川を代表する生物です。蛍が姿を消した時期もありましたが、最近では佐賀市中心市街地の人工照明が少ない水路では蛍がみられるようになってきています。

桜は、大正12年(1923年)に神野公園が鴎島家から市へ移管された頃から堤防美化のため、公園北側の二挺井樋(現在の御茶屋井樋)付近から大曲(栄橋付近)まで、楓などと一緒に植えられたようです。その後、上流部は、河畔公園整備などで植えられるようになったと思われます。現在、樹齢50年を超える桜の樹勢の衰えが目立ち、枯死する桜が増え、佐賀市では、桜並木を守るため、桜の苗木の植樹が進められています。

また、佐賀市がソパークメイト(公園ボランティア)と協力して、遊歩道沿いの桜などの樹木に樹名板を設置する活動がなされています。

※資料出典:神野(神野小学校百周年記念誌)p165-166

🌸 多布施川のサクラ(バラ科)

注)桜については、専門家によるの監修は受けていません。



ソバキカンザクラ 🌸 2月中旬



カンヒザクラ 🌸 2月下旬



ヨウコウ 🌸 3月上旬



ヤマザクラ 🌸 3月中下旬



ソメイヨシノ 🌸 3月下旬



ヤエベニシダレ 🌸 3月下旬



カンザン 🌸 4月上旬



ギョイコウ 🌸 4月上旬

上記以外の桜の種類と開花時期

(早咲きの桜の開花時期は、年によって変動が大きく、2025年は、例年より1か月遅れた種類もありました。)

カンザクラ 🌸 1月中旬	カワソザクラ 🌸 2月中旬	シナミザクラ 🌸 2月下旬	ケイオウザクラ 🌸 3月上旬
コヒガン 🌸 3月上旬	イトザクラ(ダゲザクラ) 🌸 3月中下旬	オオシマザクラ系 🌸 3月下旬	オモイガワ 🌸 3月下旬
フゲンゾウ 🌸 4月上旬	ウコン 🌸 4月上旬	イチヨウ 🌸 4月上旬	

🌸 多布施川流域の桜の観察ポイント

- 栄橋⇄神野公園⇄植木橋 (ソメイヨシノ)
- 植木橋⇄多布施川河畔公園(ソメイヨシノ等約20種)
- おもいやりの森(ソメイヨシノ等約10種)



桜風景
さくら橋上流



桜風景
蜷川橋下流



桜風景
長瀬橋上流



おもいやりの森
桜観察サイクリング

● 多布施川流域の桜と蛍 (🦋)



多布施川流域のホタル

(注)ホタルについては、専門家によるの監修は受けていません。



昼間、水路横の桜の葉の裏で休んでいる
ゲンジボタル ホタル科
体長♀18mm・♂15mm前後
2019.5.21多布施川河畔公園水路



昼間、水路横の桜の葉の裏で休んでいる
ヘイケボタル ホタル科
体長♀10mm・♂8mm前後
2021.5.13多布施川河畔公園水路



昼間行動するホタルで、触角が太い
多布施川流域にはいませんが、参考のため掲載しています。

サイクリングの休憩中に飛んできた
オオオバボタル ホタル科
体長♀15mm・♂14mm
2021.6.17嬉野市チャオシル

ゲンジボタルとヘイケボタルは、ともに幼虫の期間を水の中で暮らす水生ボタルで、夜に行動する夜行性ボタルです。光の点滅でコミュニケーションをするため、発光器が発達しています。卵、幼虫、蛹、成虫のすべてが光る発光生物で、種類や地域によって光りかたが違います。 ※餌をとるのは幼虫の期間だけで、カワニナ(巻貝の仲間)を食べます。

ホタルのほとんどが、幼虫の期間を陸で過ごす陸性ボタルで、水生ボタルは、世界で10種類ほどで、そのうち日本には3種類います。

多布施川流域では見かけませんが、佐賀県には夜行性の陸生ボタルのヒメボタルや昼間行動する昼行性ボタルのオオオバボタルなどもいます。昼行性ボタルは、フェロモン(臭い)でコミュニケーションをとるので、触角が発達しています。



ゲンジボタルの飛翔2019.6.5撮影 五領川



ヘイケボタルの卵の発光
2018.5.14撮影多布施川河畔公園



ゲンジボタルの幼虫が4月ごろ、光りながら
水中から陸へはい上がり、土の中に潜って蛹になる
2018.4.6撮影 五領川

● 多布施川流域でホタルを確認できた水路

- 多布施川河畔公園水路 (ゲンジボタル・ヘイケボタル)
- 五領川(ゲンジボタル・ヘイケボタル)
- 鳴取川(ゲンジボタル)
- 蛍川 (ゲンジボタル・ヘイケボタル) ※数見かける程度に減少。
- 植木水路 (ゲンジボタル)
- 若宮水路 (ヘイケボタル)
- 多布施水路 (ゲンジボタル)
- 大覚寺水路 (ゲンジボタル)

● ホタル観察のマナー

- 蛍の成虫は1週間の命、餌はとらずに水だけ飲んで、命を次につなぎます。
- ホタルは光の合図で♂と♀が出会って繁殖するので、ホタルや生息地を懐中電灯などで照らさない。
- ホタルの生息地に入らない。● ホタルを持ち帰らない。
- 大声で話したりして、住民の方に迷惑を掛けない。



多布施川流域の風景

◆ 多布施川四季の風景



早春風景(18) 植木井樋下流
2002.3.9撮影



花風景(35) 蛭観橋下流
2011.4.5撮影



花風景(34) 長瀬橋下流
2025.5.1撮影



新緑風景(35) 蛭観橋下流
2020.3.31撮影



新緑風景(36) 植木橋上流
2020.4.2撮影



アジサイ風景(5) 蛭川橋下流
2021.6.13撮影



夏風景(37) 梅檀橋上流
2020.8.28撮影



夏風景(34) 長瀬橋上流
2014.11.5撮影



紅葉風景(3) 多布施川河畔公園
2022.11.13撮影



紅葉風景(36) 植木橋上流
橋は旧植木橋 2014.11.5撮影



雪風景(10) 昭和橋下流
2016.1.24撮影



雪風景(35) 蛭観橋下流
2021.1.8撮影

◆ 多布施川を五感で体験



川下り風景(36) 植木橋上流
2019.3.31撮影



桜観察サイクリング風景(36) 植木橋上流
2025.3.23撮影



生物さがし風景(19) 城井樋
2023.6.23撮影

多布施川流域の生物観察おすすめスポット

◆ A 多布施川河畔公園のヌマスギ(沼杉)【ヒノキ科】

別名はラウクショウで、ビオトープ池の畔で、水中からたくさんの気根(呼吸根・膝根ともいう)を出して生えている幻想的な姿を観察できます。
※この池は有明海を模して造られていて、ヌマスギは、島原半島(諫早)の付け根の所にあります。



18 ヌマスギ2021.8.26多布施川河畔公園



ヌマスギ2021.4.11多布施川河畔公園

◆ B 多布施川河畔公園のビオトープ水路と生物パネル展示東屋

この水路(池)では、5月中旬から6月上旬まで昼間水路周辺の葉の裏で休んでいるゲンジボタルやヘイケボタルが観察でき、**環境省準絶滅危惧種(NT)**のアオハダトンボやベニイトトンボも見られます。池では、コシアキトンボやコガモ(冬)などが観察できます。水路横の東屋には、昆虫や淡水魚などを紹介する陶板のパネルが展示されています。



桜の葉の裏で休むゲンジボタル
2021.5.26多布施川河畔公園



19 ホタルやトンボを観察できるビオトープ水路
2025.9.13多布施川河畔公園



20 東屋の生物パネル展示
2025.9.23多布施川河畔公園

◆ C 多布施川河畔公園のどんぐりと水辺の鳥観察

公園には、コナラの林の他に、アラカシ、シラカシ、クヌギ、スダジイ、マテバシイなどの木々があり、9月ごろからいろんな形のどんぐり観察が楽しめます。

また、公園東側の多布施川では、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワセミ、バン、オオバン、コサギ、コガモなどの水辺の鳥の観察も楽しめます。



コナラ2021.9.1多布施川河畔公園



シラカシ2025.10.17多布施川河畔公園



クヌギ 2021.9.1多布施川河畔公園



バン2014.3.19多布施川河畔公園



キセキレイ2015.2.28多布施川河畔公園



カワセミ2020.2.14多布施川河畔公園

多布施川流域の生物観察おすすめスポット

◆ D長瀬天満宮と長瀬橋周辺

長瀬天満宮境内の入り口付近に、佐賀市名木100選の樹齢200年のイチョウがあり、11月末には見事な黄葉が楽しめます。境内のわきは、まっすぐ伸びた杉の並木になっていて、その西側にはモミジバフウの林があり、春は新緑、秋は紅葉を楽しめます。

6月、長瀬橋南側の右岸側の紫陽花もきれいで、左岸側のイロハモミジは、4月は新緑、11月は紅葉が楽しめます、3月にはシダレザクラが咲き、長瀬橋を背景にすると日本の原風景的な写真が撮れるので、おすすめします。



⑭ イロハモミジの紅葉
2023.11.27長瀬橋



⑮ 長瀬天満宮のイチョウ
2014.11.15佐賀市の名木



アジサイ
2021.6.13 多布施川

◆ E多布施川左岸及び右岸（蛍川橋～植木橋）

左岸の遊歩道を歩くと、春にはモクレン、エゴノキ、桜などの花咲く樹木、秋はムクノキ、エノキ、ケヤキ、イチョウ、イロハモミジなどの紅葉や黄葉が楽しめます。左岸に造られた人工河川の「蛍川」沿いでは、マユタテアカネやハグロトンボ、ヒメジャノメ（蝶）などの昆虫が観察ができ、春には、サギゴケやオオジシバリ、夏にはツルボなどの野草の花も楽しめます。 蛍観橋横のニセアカシアの木には、4月になると白い花が咲き、時にはコゲラ（キツツキの仲間）がエサ取りをしている姿を見かけることがあります。橋からは、春にはヤエベニシダレの花が見られ、1年を通じてカルガモの観察ができます。

また、右岸の植木橋から蛍川橋間では、2月から4月にかけて15種類以上の桜も楽しめます。（蛍観橋の左岸側のすぐ南には、桜の案内板がある。）



ハクモクレン
2020.3.2多布施川



マユタテアカネ♀
2014.9.10多布施川



サギゴケ
2021.4.9多布施川



桜の案内版
2025.9.9多布施川



コゲラ2014.3.4多布施川



多布施川桜風景
2019.4.1 蛍川橋南左岸



カルガモ
2020.2.4多布施川



紅葉風景
2022.11.13植木橋上流



ツルボ
2014.9.10多布施川



⑮ 人工河川蛍川（左）と
⑯ 多布施川（右）を跨ぐ蛍観橋



ハグロトンボ
2018.8.20多布施川



エノキ
2021.4.9多布施川

● 多布施川流域の生物 観察おすすめスポット

◆ F 梅檀橋と神野公園トンボ池周辺

梅檀橋周辺には、橋の由来となったセンダンの木のほか、クスノキ、エノキ、ユリノキなどの高木やイロハモミジなどがあり、新緑や紅葉を楽しめます。

新梅檀橋下流の右岸側には、昔の松並木の名残松があります。当初は、クロマツ（黒松）と思っていたが、専門家に写真を見てもらったところ、クロマツとアカマツとの交雑種で、クロマツに近い形質を持つアイグロマツ（間黒松）であることがわかりました。

また、すぐ横の神野公園のトンボ池には、約40種類（佐賀市HP）のトンボが生息し、トンボのモニュメントやトンボの案内パネルがあり、トンボなどの生き物観察にお勧めです。



⑫ 神野公園トンボ池
2025.9.12



神野公園トンボ池の東屋
2025.9.12



トンボの案内パネル
2025.9.12



チョウトンボ
2018.7.31 神野公園



ギンヤンマ
2018.7.26 神野公園



ベニトトンボ
2019.7.5 神野公園



セスジトトンボ
♂♀ 2019.5.15 神野公園



ショウジョウトンボ
2018.6.2 神野公園



③⑦ センダン
2025.10.16 梅檀橋北左岸



クスノキ
2025.10.16
梅檀橋横



多布施川とホトマ
2025.9.12 梅檀橋北側



イヌビワ
2025.11.28 梅檀橋



⑪ アイグロマツ
2020.1.26 新梅檀橋南側

◆ G J R 多布施川鉄橋から栄橋の区間

この区間には、松並木の名残松があり、今回これも交雑種で、アカマツに近い形質をもつアイアカマツ（間黒松）ということがわかりました。

この他、ホルトノキ、ムクノキ、エノキ、そして昔イロハカエデと一緒に植栽された桜などの木が自然堤防が残る栄橋付近まで見られ、新緑から紅葉まで楽しめます。



⑩ アイアカマツ
2020.3.4 新青木橋北側



イロハモミジの紅葉
2022.11.25 新青木橋北側



多布施川桜風景
2019.4.1 蛍川橋南左岸



桜風景
2020.4.7 新多布施橋南



ホルトノキ
2025.10.2 新多布施橋北



ホルトノキ
2025.10.2 新多布施橋北



ホルトノキの花
2018.6.30 多布施川



ホルトノキの実
2018.9.26 多布施川

● 多布施川流域で見られる主な淡水魚



2015.4.18天祐寺川 撮影



2015.4.18天祐寺川 撮影

ギンブナ 【コイ科】 全長 15-40cm ※1



2016.7.17多布施川蜷川 撮影



2013.4.20天祐寺川 撮影

ヤリタナゴ 【コイ科】 全長 5-10cm ※1.9
環境省レッドリスト2020 準絶滅危惧 (NT)



2016.6.26多布施川城井樋 撮影



2016.10.12多布施川蜷川 撮影

アブラボテ 【コイ科】 全長 4-7cm ※1.9
環境省レッドリスト2020 準絶滅危惧 (NT)

● 多布施川流域で見られる主な淡水魚



2019.8.25鳴取川 撮影



2017.5.27神野公園池 撮影

カネヒラ 【コイ科】 全長 8-15cm ※1.10
佐賀県レッドリスト2016準絶滅危惧種



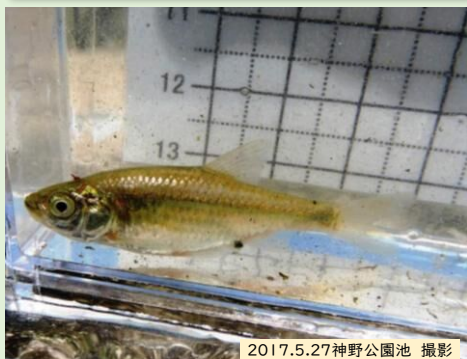
2015.4.18天祐寺川 撮影



2023.6.24多布施川城井樋

カゼトゲタナゴ 【コイ科】 全長3-5cm
環境省レッドリスト2020 絶滅危惧IB類 (EN)
佐賀県レッドリスト2016絶滅危惧II類種 ※1.9.10

イトモロコ 【コイ科】 全長 6-8cm ※1



2017.5.27神野公園池 撮影



2016.2.26赤松公民館前水路 撮影

カワバタモロコ 【コイ科】 全長 3-6cm ※1.9.10
環境省レッドリスト2020 絶滅危惧IB類 (EN) 佐賀県レッドリスト2016絶滅危惧I類種

多布施川流域で見られる主な淡水魚



2023.6.24多布施川城井樋 撮影



2017.4.15天祐寺川 撮影

オイカワ【コイ科】 全長 12-15cm ※1



2014.4.19天祐寺川 撮影



2023.6.24多布施川城井樋 撮影

カワムツ【コイ科】 全長 15-20cm ※1



2016.2.26赤松公民館前水路 撮影



2017.2.26赤松公民館前水路 撮影

モツゴ【コイ科】 全長 4-8cm ※1

● 多布施川流域で見られる主な淡水魚



2016.4.16天祐寺川 撮影



2015.4.18天祐寺川 撮影

カワヒガイ【コイ科】全長 12-16cm ※1.9.10

環境省レッドリスト2020 準絶滅危惧 (NT) 佐賀県レッドリスト2016 準絶滅危惧種



2023. 6.24多布施川城井樋 撮影

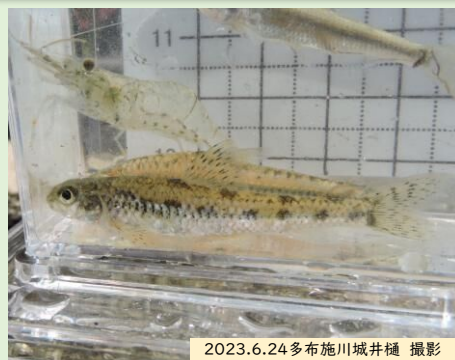


2016.6.26多布施川城井樋 撮影

ムギツク【コイ科】全長 8-15cm ※1



2017.5.27神野公園池 撮影

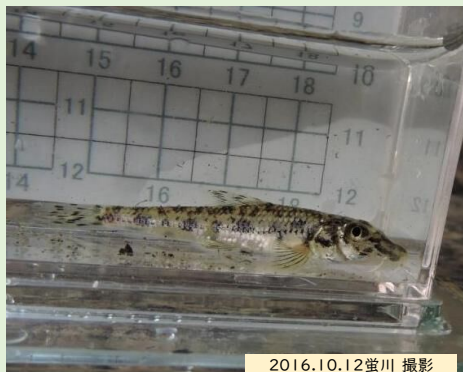


2023.6.24多布施川城井樋 撮影

ゼゼラ【コイ科】全長 4-7cm ※1.9

環境省レッドリスト2020 絶滅危惧II類 (VU)

● 多布施川流域で見られる主な淡水魚

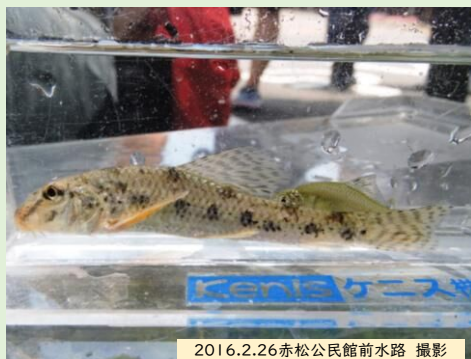


2016.10.12 蜷川 撮影



2015.4.18 天祐寺川 撮影

カマツカ 【コイ科】 全長 12-20cm ※I



2016.2.26 赤松公民館前水路 撮影



2016.2.26 赤松公民館前水路 撮影

ツチフキ 【コイ科】 全長 4-10cm ※I.9.10

環境省レッドリスト2020 絶滅危惧IB類(EN) 佐賀県レッドリスト2016 準絶滅危惧種



2016.11.23 蜷川 撮影



2016.11.23 蜷川 撮影

アリアケスジシマドジョウ 【ドジョウ科】 全長 6-9cm ※I.9.10

環境省レッドリスト2020 絶滅危惧IB類(EN) 佐賀県レッドリスト2016 絶滅危惧I種

● 多布施川流域で見られる主な淡水魚

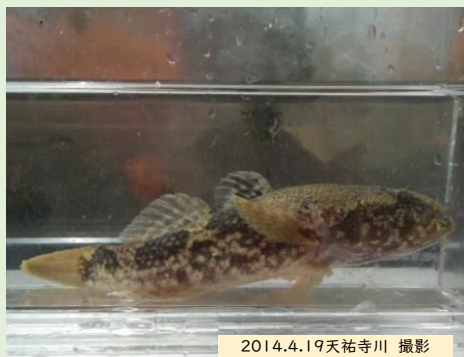


2018.6.17多布施川河畔公園 撮影



2018.6.17多布施川河畔公園 撮影

ミナメダカ【メダカ科】全長 4-5cm ※1.9.10
環境省レッドリスト2020 絶滅危惧II類(VU) 佐賀県レッドリスト2016準絶滅危惧種

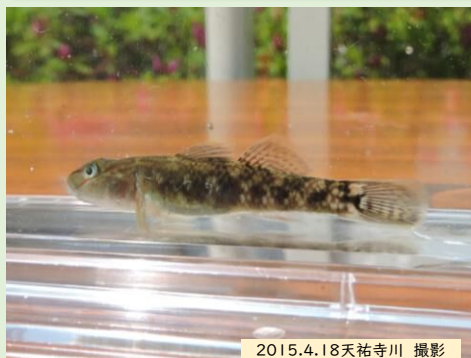


2014.4.19天祐寺川 撮影



2017.5.27神野公園池 撮影

ドンコ【ドンコ科】全長 15-25cm ※1



2015.4.18天祐寺川 撮影



2015.4.18天祐寺川 撮影

トウヨシノボリ【ハゼ科】全長 4-8cm ※1

多布施川流域で見られる主なトンボ



2019.5.14多布施川河畔公園 撮影



2019.5.14多布施川河畔公園 撮影

アオハダトンボ【カワトンボ科】全長 55-63mm

環境省レッドリスト2020準絶滅危惧 (NT) 佐賀県レッドリスト2023準絶滅危惧種 成虫活動期間 5月-8月 ※2,3,4



2018.8.20多布施川 撮影



2019.6.19多布施川河畔公園 撮影

ハグロトンボ【カワトンボ科】

全長 54-68mm 成虫活動期間 5月~10月※2



2019.7.12多布施川河畔公園DSCN7779



2019.5.22神野公園DSCN7500

ベニイトトンボ【イトトンボ科】全長 32-45mm

環境省レッドリスト2020準絶滅危惧 (NT) 佐賀県レッドリスト2023準絶滅危惧種 成虫活動期間 5月~10月※2,3,4

● 多布施川流域で見られる主なトンボ



2018.8.8多布施川 撮影



2018.8.6多布施川河畔公園 撮影

ギンヤンマ【ヤンマ科】

全長 65-84mm 成虫活動期間 5月～10月※2



2018.6.28多布施川 撮影



2018.7.4多布施川河畔公園 撮影

コオニヤンマ【サナエトンボ科】

全長 75-93mm 成虫活動期間 5月～10月※2



2017.4.30多布施川 撮影



2014.5.10多布施川 撮影

タベサナエ【サナエトンボ科】全長 43-47mm

環境省レッドリスト2020 準絶滅危惧 (NT) 成虫活動期間 4月～6月※2.3

● 多布施川流域で見られる主なトンボ



2018.7.31 神野公園 撮影



2017.8.2 神野公園 撮影

チョウトンボ【トンボ科】

全長 31~42mm 成虫活動期間 6月~9月※2



2018.9.4 多布施川 撮影



2014.09.10 多布施川 撮影

マユタテアカネ【トンボ科】

全長 30-43mm 成虫活動期間 6月~12月※2



2018.8.6 多布施川河畔公園 撮影



2018.6.24 多布施川 撮影

コシアキトンボ【トンボ科】

全長 40~50mm 成虫活動期間 5月~9月※2

多布施川流域で見られる主なトンボ



ショウジョウトンボ【トンボ科】

全長 38~55mm 成虫活動期間 4月~10月※2



ウスバキトンボ【トンボ科】

全長 44~54mm 成虫活動期間 4月~11月※2



シオカラトンボ【トンボ科】

全長 47-61mm 成虫活動期間 5月~10月※2

● 多布施川流域で見られる主なチョウとガ



アゲハ【アゲハチョウ科】
開張65~90mm 成虫活動期間 4月~10月※2



キタキチョウ【シロチョウ科】
開張35~45mm 成虫活動期間 4月~11月※2



モンキチョウ【シロチョウ科】
開張40~50mm 成虫活動期間 3月~11月※2

● 多布施川流域で見られる主なチョウとガ



2014.9.9多布施川 撮影



2018.10.18多布施川

ヤマトシジミ 【シジミチョウ科】

開張20~30mm 成虫活動期間 3月~11月※2



2023.9.13多布施川 撮影



2023.9.13多布施川 撮影

クロマダラソテツシジミ 【シジミチョウ科】 未土着種

開張約25mm 成虫活動期間 県内では主に9~11月に確認 ※2



2018.10.18多布施川 撮影



2014.10.27多布施川 撮影

アカタテハ 【タテハチョウ科】

開張50~60mm 成虫活動期間 3月~11月(成虫越冬) ※2

● 多布施川流域で見られる主なチョウとガ



2018.8.7神野公園 撮影



2018.8.24多布施川 撮影

タテハモドキ 【タテハチョウ科】

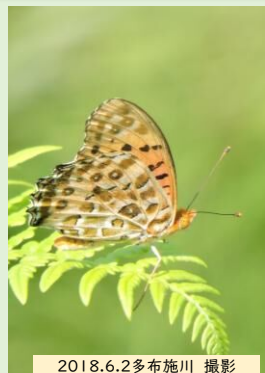
開張55~60mm 成虫活動期間 【成虫越冬】 冬季は活動しない。※2



2014.9.26多布施川 撮影



2018.10.18多布施川 撮影



2018.6.2多布施川 撮影

ツマグロヒョウモン 【タテハチョウ科】

開張60~70mm 成虫活動期間 4月~11月※2



2014.9.25多布施川 撮影



2019.5.28多布施川 撮影

ヒメウラナミジャノメ 【タテハチョウ科】

開張30~40mm 成虫活動期間 4月~10月※2

● 多布施川流域で見られる主なチョウとガ



2014.9.9多布施川 撮影



2014.8.31多布施川 撮影

イチモンジセセリ 【セセリチョウ科】
開張34~40mm 成虫活動期間 5月~11月※2



2023.9.13多布施川ゴキツルの葉上 撮影



2023.9.13多布施川ゴキツルの葉上 撮影

アシナガモモフトスカシバ 【スカシバ科】
開張18-28mm 成虫活動期間6-10月 ※5.3.4
環境省レッドリスト2020絶滅危惧II類(VU) 佐賀県レッドリスト2023絶滅危惧II類種 幼虫は、ゴキツルに虫こぶをつくる。



2021.6.21多布施川 撮影



2021.6.21多布施川 撮影

ナカグロクチバ 【ヤガ科】
開張約38~44mm 成虫活動期間 5月~10月※2

多布施川流域で見られる主な野鳥



2014.1.13多布施川 撮影



2014.1.13多布施川 撮影

マガモ 【カモ科】

全長 雄61cm・雌53cm 【冬鳥・留鳥】※3



2020.3.15多布施川 撮影



2020.2.4多布施川 撮影

カルガモ 【カモ科】

全長 雄63cm・雌53cm 【留鳥】※3



2020.2.10多布施川 撮影



2020.2.2多布施川 撮影

コガモ 【カモ科】

全長 雄41cm・雌38cm 【冬鳥】※3

多布施川流域で見られる主な野鳥



2014.3.28多布施川 撮影



2013.3.21多布施川 撮影



2013.3.21多布施川 撮影

アオサギ 【サギ科】
全長93cm 【留鳥】※3



2014.3.19多布施川 撮影



2014.3.19多布施川 撮影

オオバン 【クイナ科】
全長 39cm 【漂鳥】※3



2014.3.21多布施川 撮影



2014.3.19多布施川 撮影

バン 【クイナ科】
全長 32cm 【漂鳥・留鳥】※3

多布施川流域で見られる主な野鳥



2019.1.25多布施川 撮影



2020.2.14多布施川 撮影

カワセミ【カワセミ科】
全長17cm 【留鳥】※3



2014.3.3多布施川 撮影



2013.1.31多布施川 撮影

ハクセキレイ【セキレイ科】
全長21cm 【漂鳥・留鳥】※3



2014.3.4多布施川 撮影



2013.2.21多布施川 撮影

コゲラ【キツキ科】
全長15cm 【留鳥】※2

多布施川流域で見られる主な野鳥



2020.2.2多布施川 撮影



2020.1.26多布施川 撮影

ヒヨドリ【ヒヨドリ科】
全長28cm 【留鳥・漂鳥】※2



2014.3.17多布施川 撮影



2013.2.22多布施川 撮影

モズ【モズ科】
全長20cm 【留鳥・漂鳥】※2



2017.3.5多布施川 撮影



2017.1.4多布施川 撮影

ジョウビタキ【ヒタキ科】
全長15cm 【冬鳥】※2

多布施川流域で見られる主な野鳥



2013.1.30多布施川 撮影



2014.3.3多布施川 撮影



2013.2.8多布施川 撮影

ツグミ 【ツグミ科】
全長 24cm 【冬鳥】 ※2



2019.1.3多布施川 撮影



2020.2.15多布施川 撮影

シジュウカラ 【シジュウカラ科】
全長 15cm 【留鳥・漂鳥】 ※2



2013.2.25多布施川 撮影



2020.2.14多布施川 撮影

メジロ 【メジロ科】
全長 12cm 【留鳥・漂鳥】 ※2

多布施川流域で見られる主な野鳥



2014.3.3多布施川 撮影



2014.2.21多布施川 撮影

アオジ 【ホオジロ科】
全長16cm 【漂鳥】※3



2019.1.17多布施川 撮影



2014.2.22多布施川 撮影

ムクドリ 【ムクドリ科】
全長24cm 【留鳥・漂鳥】※2



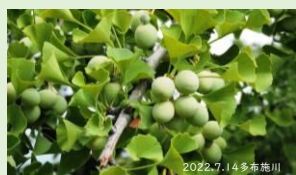
2013.3.21多布施川 撮影



2020.2.9多布施川 撮影

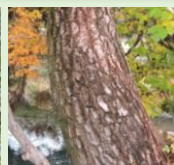
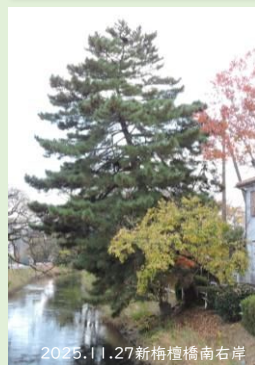
カササギ 【カラス科】
全長45cm 【留鳥】※2

多布施川流域で見られる主な樹木



イチョウ【イチョウ科】

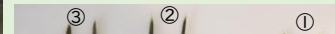
🌲 高木25m以上 🍂 落葉 🌸 4-5月 果期10-11月※1



アイグロマツ【マツ科】

※アカマツとクロマツは雑種をつくり、クロマツに近いものをアイグロマツ(間黒松)と言う。

🌲 高木25m前後 🌿 常緑 🌸 5月 果期10-11月(翌年)※1



アイアカマツの葉①/アイグロマツの葉②③

アイアカマツ【マツ科】

※アカマツとクロマツは雑種をつくり、アカマツに近いものをアイアカマツ(間赤松)と言う。

🌲 高木5-30m 🌿 常緑 🌸 4-5月 果期10-11月(翌年)※1

多布施川流域で見られる主な樹木



メタセコイア 【ヒノキ科】 別名アケボノスギ

🌲 高木25m以上 🍂 落葉 🌸 2-3月 果期10-11月※1



ヌマスギ 【ヒノキ科】 別名ラクウショウ

🌲 高木20m以上 🍂 落葉 🌸 4月 果期10-11月※1.7.13



ハクモクレン 【モクレン科】

🌲 高木7-15m 🍂 落葉 🌸 3-4月 果期10月※1

多布施川流域で見られる主な樹木



2025.10.17 河畔公園



2022.7.14 河畔公園



2022.7.14 河畔公園



2025.10.14 河畔公園



2022.7.14 河畔公園

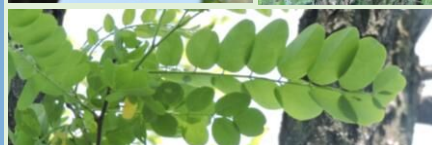


2022.11.13 河畔公園

モミジバフウ 【フウ科】 別名アメリカカフウ
 🌳 高木15m以上 🍂 落葉 🌸 4月 果期11-12月※1



2018.4.27 蜷観橋左岸



ハリエンジュ 【マメ科】 別名ニセアカシア
 🌳 高木15m前後 🍂 落葉 🌸 5-6月 果期10月※1.13



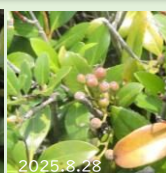
2014.5.2 植木 橋北右岸



2022.5.5 多布施川



2014.5.2



2025.8.28



2025.8.28



2025.8.28

シャリンバイ 【バラ科】
 🌳 低木1-4m 🌿 常緑 🌸 5月 果期10-12月※1

多布施川流域で見られる主な樹木



ムクノキ【アサ科】

🌲 高木15-20m 🍂 落葉 🌸 4-5月 果期10月※1



エノキ【アサ科】

🌲 高木15-20m 🍂 落葉 🌸 4-5月 果期9月※1



アラカン【ブナ科】

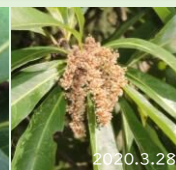
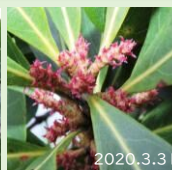
🌲 高木10-15m 🌿 常緑 🌸 4-5月 果期10-11月※1

多布施川流域で見られる主な樹木



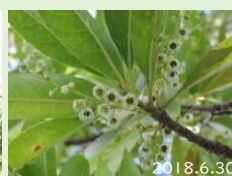
コナラ 【ブナ科】

▲ 高木 10-20m 🍂 落葉 🌸 4-5月 果期 10-11月※1



ヤマモモ 【ヤマモモ科】

▲ 高木 5-15m 🌿 常緑 🌸 4月 果期 7-8月 (多布施川6月中旬)※1



ホルトノキ 【ホルトノキ科】 別名モガシ

▲ 高木 10-15m 🌿 常緑 🌸 7-8月 果期 9-10月※1

多布施川流域で見られる主な樹木



ナンキンハゼ 【トウダイグサ科】

🌲 高木5-15m 🍂 落葉 🌸 6-7月 果期10月※1



イロハモミジ 【ムクロジ科】

🌲 高木10m前後 🍂 落葉 🌸 4-5月 果期7-9月※1



センダン 【センダン科】

🌲 高木15m前後 🍂 落葉 🌸 5-6月 果期10-12月※1

● 多布施川流域で見られる主な野草



2018.6.24多布施川 撮影



2014.6.24多布施川 撮影



2015.6.24多布施川 撮影



2013.7.7多布施川 撮影

● **ネジバナ**【ラン科】 ☆ 6-7月 淡紅色の花
● 花がらせん状に並んで、ねじれながら咲く。(名の由来) ※1.9



2014.9.23多布施川 撮影



2014.9.23多布施川 撮影



2014.9.23多布施川 撮影

● **ツルボ**【クサスギカズラ科】 ☆ 8-9月 淡紅紫色の花
● 皮をむいたなめらかな鱗茎から「つるん坊」と呼んだものが準化したのが名の由来。 ※1.14



2023.9.23多布施川 撮影



2018.6.24多布施川 撮影



2018.9.4多布施川 撮影

● **ツクサ**【ツクサ科】 ☆ 6-9月 鮮明な青色の花
● 朝露のようにはかなく、半日ほどでしぼむ花。(名の由来) ※1

● 多布施川流域で見られる主な野草



2014.5.2多布施川 撮影



2022.5.5多布施川 撮影



2014.5.2多布施川 撮影

コバンソウ 【イネ科】 帰化植物 ♀ 4-5月

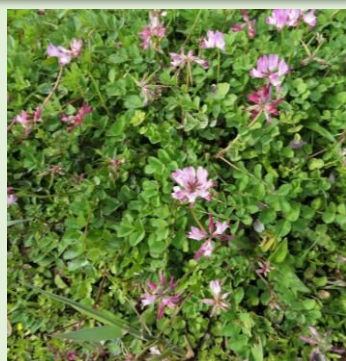
● 小穂が小判に似ていることが名前の由来。※1



2021.3.29多布施川河畔公園 撮影



2021.3.29河畔公園 撮影



2021.3.29多布施川河畔公園 撮影

ゲンゲ 【マメ科】 別名レンゲソウ 帰化植物 ♀ 3-5月 赤紫色の花

● 花を輪状につける様子がハスの花に似ている。(レンゲソウの名の由来) ※1.9



2014.4.24多布施 撮影



2014.4.24多布施 撮影



2014.4.24多布施川 撮影

シロツメクサ 【マメ科】 別名クローバー 帰化植物 ♀ 3-8月 白色の花

● 詰物(クッション材)に利用される白い花。(名の由来) ※1.10

● 多布施川流域で見られる主な野草



2017.3.19多布施川 撮影



2014.3.17多布施川 撮影



2020.3.15多布施川 撮影

ヤハズエンドウ【マメ科】 別名カラスノエンドウ ☆ 3-5月 赤紫色の花

● 熟したさやが真っ黒になることが名前の由来。※1.9



2014.5.16多布施川 撮影



2014.5.16多布施川 撮影



2014.5.16多布施川 撮影

ナワシロイチゴ【バラ科】 ☆ 5-6月 紅紫色の花

● 田植えの頃に実がなる。(名の由来)※12



2017.4.21多布施川 撮影



2021.9.4多布施川 撮影



ミ-が刊2023.5.9多布施川 撮影

カラムシ【イラクサ科】 ☆ 7-9月 黄緑色の花

● から(茎の幹)を蒸して繊維をとったことから名づけられた。※1
5月ごろ、葉っぱの上にいるラミーカミキリを見かける。

多布施川流域で見られる主な野草



2021.3.29多布施川 撮影



2021.3.29多布施川 撮影



2021.3.29多布施川 撮影

ツボスマレ【スミレ科】 別名ニョイスミレ ☆ 4-5月 白色の花

● 坪は庭を意味する古語で、庭に生えるスミレの意。花が壺型だからという説もある。(名の由来) ※9.1.7



2020.8.12多布施川 撮影



2020.8.12多布施川 撮影



2020.8.12多布施川 撮影

ヒレタゴボウ【アカバナ科】 帰化植物 ☆ 8-10月 黄色の花

● 葉のつく下部に翼がある。この翼(ひれ)が名の由来。 ※12



2022.5.30五領川 撮影



2022.5.30五領川 撮影



2022.5.30五領川 撮影

ユウゲシヨウ【アカバナ科】 帰化植物 ☆ 4-10月 紅紫色の花

● 夕方に咲くから夕化粧。実際は日の出前に咲いて、夕方、日没ごろにしばむ。 ※1

● 多布施川流域で見られる主な野草



2022.5.5多布施川 撮影



2017.3.30多布施川 撮影



2022.5.5多布施川 撮影

スイバ 【タデ科】 別名スカンボ ☆ 5-8月 黄緑色の花
● 茎や葉を生でかじると酸っぱい味がするので、名づけられた。※1.13



2014.5.11多布施 撮影



2014.5.11多布施 撮影



2021.5.9多布施川 撮影



2021.5.9多布施川 撮影

シロバナマンテマ 【ナデシコ科】 帰化植物 ☆ 3-5月 白色の花
● 茎や葉、萼に毛が密集する。※1



2005.8.24多布施川 撮影



2005.8.24多布施川 撮影



2005.8.24多布施川 撮影

スベリヒユ 【スベリヒユ科】 ☆ 7-9月 黄色の花
● 葉に水気があってなめらかなことが名前の由来。※1

● 多布施川流域で見られる主な野草



2014.8.31 多布施川 撮影



2014.8.31 多布施川 撮影



2014.9.7 多布施川 撮影

ヘクソカズラ【アカネ科】別名サトメカズラ・ヤイトバナ

★ 8-9月 花の内側が真紅色の白い花

● 葉や茎をちぎると不快なおいがある。これを屁や糞のにおいに例えて名づけられた。※1



2014.10.3 多布施川 撮影



2014.10.3 多布施川 撮影



2014.10.3 多布施川 撮影

マルバルコウ【ヒルガオ科】帰化植物 ★ 8-11月 朱赤色の花

● 葉は丸みのあるハート形。(名の由来) ※1.9



2011.4.21 多布施川 撮影



2014.4.24 多布施川 撮影



2014.4.24 多布施川 撮影

マツバウンラン【オオバコ科】帰化植物 ★ 4-5月 淡青紫色の花

● 在来種のウンランに比べ葉が細いのでこの名が付けられた。※1.9

● 多布施川流域で見られる主な野草



2014.5.1 多布施川 撮影



2013.4.9 多布施川 撮影



2013.4.9 多布施川 撮影

オオイヌノフグリ 【オオバコ科】 帰化植物 ☆ 1-5月 青色の花

● 同属のイヌノフグリより全体的に大型なので、この名がつけられた。※1.9



2014.3.19 多布施川 撮影



2011.4.11 多布施川 撮影



2014.3.19 多布施川 撮影

ホトケノザ 【シソ科】 ☆ 1-5月 紅紫色の花

● 半円形の葉が向き合ってつく様子が、仏が座る台座のように見える。(名の由来) ※1.9



2021.4.9 多布施川 撮影



2021.4.9 多布施川 撮影



白花 2021.4.9 多布施川 撮影

サギゴケ 【サギゴケ科】 ☆ 4-5月 紅紫色の花

● 花の形が翼を広げたサギに似ているのが名の由来。※1

多布施川流域で見られる主な野草



2014.5.16多布施川 撮影



2021.5.14多布施川 撮影



2021.5.17多布施川 撮影

キキョウソウ 【キキョウ科】 帰化植物 ☆ 5-6月 青紫色の花

● 桔梗のような花が咲くことが名の由来。※1.9



2014.5.10多布施川 撮影



2014.5.10多布施川 撮影



2021.5.9多布施川 撮影

ノアザミ 【キク科】 ☆ 4-8月 紅紫色の花

● 葉は羽状に深く裂けて、ふちに鋭いとげがある。※1.9



2017.4.30多布施川 撮影



2017.4.30多布施川 撮影



2017.4.30多布施川 撮影

ハハコグサ 【キク科】 ☆ 4-6月 黄色い花

● 名の由来は、白い毛が生える様子を母が子を包む姿に見立てた説などがある。※1

【多布施川】

- 1 佐賀市の川と橋 深川 保 著 佐賀市(建設部監理課)平成5年2月20日発行
- 2 佐賀市河川図 1/10000 佐賀市役所
- 3 佐賀市史佐賀市史第一巻(地理的環境・原始・古代・中世編)昭和52年7月29日発行
- 4 佐賀市史(旧版)上巻 昭和20年1月5日発行
- 5 佐賀市史(旧版)下巻 昭和27年10月1日発行
- 6 佐賀市歴史的風致維持向上計画 平成27年3月 佐賀市
- 7 水の恵を未来へと 石井樋と佐賀の水
国土交通省九州地方整備局 武雄河川事務所 平成19年3月作成 平成30年3月一部更新
- 8 縄文の奇跡! 東名遺跡 歴史をぬりかえた縄文のタイムカプセル 国史跡がまるごとわかる!
佐賀市教育委員会(編者)
- 9 国土交通省九州地方整備局佐賀河川事務所
佐賀導水 佐賀市内の浄化用水の供給 2026/2/5閲覧
https://www.qsr.mlit.go.jp/saga/about/sagadousuiro/07_dousui.html
- 10 「多布施川の水を考える」 佐賀市水対策市民会議 資料
- 11 縄文の奇跡! 東名遺跡ひがしみやう 歴史をぬりかえた縄文のタイムカプセル 佐賀県教育委員会
- 12 多布施川を中心とした佐賀の水供給システムに関する研究 島谷 幸宏 野副 文啓
- 13 佐賀城とともに 赤松の歴史と文化
佐賀城周辺地域コミュニティー再生委員会 平成25年3月31日発行
- 14 わがまち神野 ~神野の歴史と文化~ 平成24年6月 「神野町史」編集委員会
- 15 神野 佐賀市立神野小学校 創立百周年記念事業実行委員会 昭和54年10月20日発行
- 16 佐賀城下探訪会【配付資料】 第4回 鍋島発祥の地と佐賀城築城の源流をたどる。
平成23年12月11日 佐賀城下まちづくり実行委員会 主催
- 17 御城下絵図に見る佐賀のまち 平成22年2月発行 財団法人 鍋島報効会(徴古館)

【水生昆虫・淡水魚】

- 1 山溪ハンディ図鑑 日本の淡水魚 第4版 山と溪谷社
- 2 フィールドガイド 日本の魚 淡水編 田口 哲 著 小学館
- 3 田んぼの生き物識別図鑑 社団法人 地域環境資源センター
- 4 カラー自然ガイド 水生昆虫 津田松苗・六山正孝 共著 保育社
- 5 新訂 水生生物ハンドブック 苅田敏三 著 文一総合出版
- 6 水生昆虫③ ヤゴハンドブック 尾園 暁・川島逸郎・二橋 亮 著 文一総合出版
- 7 ポケット図鑑2 昆虫 佐藤正孝・堀 義宏 共著 保育社
- 8 ナベブタムシの仲間|Hinata 2026/1/3閲覧
<https://note.com/hinatatsu/n/n4df3f087f212>
- 9 環境省レッドリスト2020(昆虫類)
環境省レッドリスト2020(汽水・淡水魚類)
- 10 佐賀県レッドリスト2016(汽水・淡水魚類) 及び2023(昆虫・クモ類編)
- 11 佐賀の自然デジタル大百科事典|佐賀の淡水魚 ミナミメダカ
2026/1/3閲覧 <https://www.saganature.jp/tansuigyoy/detail.html?id=68>
- 12 水生生物による水質評価法マニュアル-日本版平均スコア法- 平成29年3月 環境省

【トンボ】

- 1 原色日本昆虫生態図鑑 II トンボ編 石田省三 著 保育社
- 2 ポケット図鑑 日本の昆虫1400 ②トンボ・コウチュウ・ハチ
梶 真史 編著 伊丹昆虫館 監修 文一総合出版
- 3 環境省レッドリスト2020 (昆虫類)
- 4 佐賀県レッドリスト2023 (昆虫・クモ類編)

【チョウ・ガ】

- 1 標準原色図鑑全集 I 蝶・ガ 白水 隆/黒子 浩 共著 保育社
- 2 ポケット図鑑 日本の昆虫1400 ①チョウ・バタ・セミ
梶 真史 編著 伊丹昆虫館 監修 文一総合出版
- 3 環境省レッドリスト2020 (昆虫類)
- 4 佐賀県レッドリスト2023 (昆虫・クモ類編)
- 5 アシナガモモブとスカシバ 2026/2/3閲覧
http://kanon1001.web.fc2.com/data_musi/ga/K_sukasiba_ga/momobuto_sukasiba/asinaga_momobuto_sukasiba.htm
- 6 ゴキヅル(合器蔓) 松江の花図鑑 2025/12/27閲覧
<https://matsue-hana.com/hana/gokiduru.html>

【ホタル】

- 1 ポケット図鑑 日本の昆虫1400 ②トンボ・コウチュウ・ハチ
梶 真史 編著 伊丹昆虫館 監修 文一総合出版
- 2 ホタル学 里山が育むいのち 東京ゲンジボタル研究所 古河義仁 著 丸善出版

【野鳥】

- 1 フィールドガイド 日本の野鳥編 増補改訂新版 高橋伸二 著 公益財団法人 日本野鳥の会
- 2 フィールドのための野鳥図鑑 野山の鳥 高木清和 著 山と溪谷社
- 3 フィールドのための野鳥図鑑 水辺の鳥 高木清和 著 山と溪谷社
- 4 野鳥観察ハンディ図鑑 新・山野の鳥 (財) 日本野鳥の会
- 5 野鳥観察ハンディ図鑑 新・水辺の鳥 (財) 日本野鳥の会

【 樹 木 】

- 1 葉っぱで見分け五感で楽しむ 樹木図鑑 監修 林 将之 編著 ネイチャー・プロ編集室 ナツメ社
- 2 葉っぱで見分ける樹木 増補改訂版 林 将之 著 小学館
- 3 散歩の樹木図鑑 岩槻秀明 著 新星出版社
- 4 樹皮ハンドブック 林 将之 著 文一総合出版
- 5 冬芽ハンドブック 広沢 毅/解説 林 将之/写真 文一総合出版
- 7 ラクウショウ *Taxodium distichum* ヒノキ科 Cupressaceae ヌマスギ属
三河の植物観察 2025/12/20閲覧
<https://mikawanoyasou.org/data/rakuushou.htm>
- 8 日本維管束植物目録 邑田 仁 監修 米倉浩司 著 北隆館
- 9 山溪レクヨン 日本の桜 写真/奥田 實・木原 浩 解説/川崎哲也 山と溪谷社
- 10 サクラハンドブック 大原隆明 著 文一総合出版
- 11 さくら百科 永田 洋/浅田信行/石川晶生/中村輝子 編 丸善株式会社
- 12 佐賀市の名木・古木
佐賀市緑の募金推進協議会(佐賀市建設部緑化推進課)2018年3月
- 13 米倉浩司・梶田忠(2007-) 「植物和名一学名インデックスYList」(YList),
<http://ylist.info> (2026年2月18日)

【 野 草 】

- 1 色で見分け五感で楽しむ 野草図鑑 監修/藤井伸二 著/高橋 修 ナツメ社
- 2 学生版 原色牧野日本植物図鑑 著者 牧野富太郎 北隆館
- 3 佐賀の自然と植物 佐賀植物友の会
- 4 カラー自然ガイド 人里の植物Ⅰ 長田武正 著 保育社
- 5 カラー自然ガイド 人里の植物Ⅱ 長田武正 著 保育社
- 6 カラー自然ガイド 水辺の植物 堀田 満 著 保育社
- 7 スマイルハンドブック 山田隆彦 著 文一総合出版
- 8 日本維管束植物目録 邑田 仁 監修 米田浩司 著 北隆館
- 9 校庭の雑草図鑑 増補改訂版 上赤博文 著 南方新社
- 10 日本帰化植物写真図鑑 清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七 編・著 全国農村教育協会
- 11 日本帰化植物写真図鑑第2巻 植村修二/勝山輝男/清水矩宏
/水田光雄/森田弘彦/廣田伸七/池原直樹 編・著 全国農村教育協会
- 12 マツバウンラン/ヒレタゴボウ/ナワシロイチゴ
三河の植物観察 <https://mikawanoyasou.org/index.shtml>
- 13 スイバに似た仲間
松江の花図鑑 https://matsue-hana.com/#google_vignette
- 14 米倉浩司・梶田忠(2007-) 「植物和名一学名インデックスYList」(YList),
<http://ylist.info> (2026年2月18日)

令和7年度佐賀県KAWARUチャレンジ事業費補助金の交付を受けて作成

多布施川流域ガイドブック



監修:佐賀自然史研究会(桜と蛍を除く生物)

協力:エスカルゴcc・多布施川ホタルネット NPO法人 みなくるSAGA

令和8年2月28日発行

編集・発行:山口正吾(多布施川ホタルネット・エスカルゴcc)

(絵図・鳥瞰図作画:平山章一 写真撮影:山口正吾)

問い合わせ先
エスカルゴcc



©2026 山口正吾

